

北九州市観光振興プラン・インバウンド誘致アクションプラン
フォローアップ検討会 議事録

日 時:令和8年3月26日(木) 10:00~12:00

場 所:AIMビル6階COMPASS C会議室

概 要:下記の通り

1 事務局より「観光の現状、KPIの設定について」について説明

2 質疑応答・意見交換

●宿泊・ナイトコンテンツ強化と旅マエのプロモーションに注力し、さらなる観光消費拡大を図るべき

- ・北九州はものづくり中心から観光重視へ転換しており期待感がある
- ・観光戦略としては「宿泊客重視」にシフトすべき(参考事例として熊本・函館)
- ・夜景、朝市(朝の体験)、屋台村(ナイトエコノミー)の3要素が重要と指摘
- ・インバウンドは韓国・台湾に加え東南アジアまで拡大すべき
- ・来訪後ではなく「来日前の計画段階」での訴求が重要
- ・若い世代や多様な意見を取り入れ、今が強化の好機と評価

●宿泊・飲食・観光の連携強化と出張客の観光化が重要な成長ポイント

- ・「宿泊客が観光しない」「観光客が宿泊しない」という分断があるというのが実感
- ・宿泊税の使途が宿泊増に直結していないとの現場の感覚
- ・出張客が多く、観光誘導すれば、伸びしろが大きい
- ・飲食店・宿泊・観光の連携不足を指摘
- ・イベント(ライブ・スポーツ)は宿泊需要に効果大
- ・ホテル不足ではなく「需給の偏在」が問題

●団体・教育旅行・イベントを軸に安定的な宿泊需要を確保すべき

- ・北九州市は、福岡に近い地理的優位性は大きな強み
- ・イベント誘致は有効な集客手段
- ・修学旅行誘致は安定需要として重要
- ・法人、団体旅行は回復・拡大傾向
- ・夜景・工場夜景などのコンテンツはエージェント向け発信が必要
- ・韓国ゴルフ客など季節需要の取り込みも有効

●交通アクセス強化と情報整備、コンテンツ活用でインバウンド拡大可能

- ・観光施策は着実に進展していると評価
- ・台湾便再開予定、SNS 活用が重要
- ・多言語対応・交通案内など受入態勢整備の重要性を指摘
- ・食の魅力は世界的に通用するポテンシャル
- ・熊本のワンピースの事例(アニメ活用)はヒントとなる。

●「人」と「体験」によるリピーター創出と現場(観光事業者間)の連携強化が必要

- ・交通・食・環境など都市の魅力を実感
- ・SNS での集客の難しさを指摘
- ・宿泊客と街歩きの連携事例を紹介
- ・飲食・観光・宿泊の連携不足を実感
- ・再訪促進には、四季の魅力、人との交流が重要

●ストーリー性ある発信と推し活活用で若年層・来訪動機を創出するべき

- ・個別施設ではなく「モデルコース型発信」に転換すべき
- ・SNS は旅行動機形成に大きな影響
- ・ショートドラマで「人の魅力」を伝える試み
- ・若者施策として「推し活」の活用を提案
- ・イベント来訪者を街全体で歓迎する仕組みが重要

●若者向けに非日常体験を提供することが都市魅力向上の鍵

- ・若者は福岡へ流出している
- ・北九州は「非日常性」が不足
- ・若者向けの魅力創出が必要

●計画から実行へ、かつ新たな情報環境への対応が必要

- ・PDCA の「実行(Action)」が重要
- ・SNS に加え生成 AI 時代の情報発信対応も必要
- ・全体方針は妥当と評価